

1. 京都大学整形外科専門研修プログラムについて

世界に誇る文化の都である京都にあって、自重自敬の精神を育み、独創的な学問の世界を切り開いてきた京都大学では、**自由と調和を基本理念**としています。自ら学び、**多元的な課題の解決に挑戦し、周囲と調和して医療、医学の発展に貢献できるプロフェッショナルな整形外科医の育成**を行います。

I 専門研修プログラムで学ぶもの

i 実践的な技術

豊富な症例数に基づいた研修によって、運動器全般に関する的確な診断能力を修得し、適切な保存療法、リハビリテーションを実践します。そして基本手技から最先端技術までを網羅した運動器全般に対する手術治療の技術を学び、診断から治療までを自らの判断の下で行う素地を養います。

ii 豊富な知識

整形外科医としてあらゆる運動器疾患に関する知識を系統的に理解し、日々進歩する最先端の知見を吸収し続け、日々の診療に還元します。

iii 探求心

日々の診療の中で生まれる疑問を解明する為に、どのような研究が必要かを理解し、疑問に対する解答を科学的に導き出し、論理的にまとめて発表する能力を養います。

iv 患者や医療関係者との信頼関係の構築

チーム医療の一員として、医療関係者とのコミュニケーションを密に行い、協力して医療を実践し、常に患者視点に立って患者と接する会話を修得します。

整形外科専門医は、国民に対して質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため、整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、高い診療実践能力を有する必要があります。また、常に探求心を持って、日々の疑問の解決に取り組み、その中から新たな知見を見出して、世の中に発信することで、医療と医学に貢献することも求められます。さらに、コミュニケーション能力を高めて、患者だけでなく、医療関係者との信頼関係を構築することも日々の診療を円滑に行う上で非常に大切です。

II 京都大学整形外科専門研修の特徴

(i) 京都大学整形外科学教室について

京都大学整形外科学教室は1906年の開講で、日本で最も古い歴史を持った整形外科学教室であり、開講以来、様々な臨床研究、基礎研究を行い、独創的で優れた知見、手術手技、整形外科インプラントを世の中に送り出してきました。現在、京都大学整形外科では、膝関節、股関節、脊椎、腫瘍、リウマチ、手外科、スポーツなどのグループに分かれ、質の高い医療を提供すると共に、基礎研究ではバイオメカニクス、人工材料、腫瘍、軟骨、骨

代謝、リウマチ、抹消神経、骨格形成・機能制御の研究グループに分かれて様々な研究を行っています。また、大学内に iPS 細胞研究所をはじめとした様々な研究機関を擁し、それらの研究機関においても整形外科スタッフが研究を行い、連携して様々な分野での基礎および臨床研究を進めています。また、病院敷地内にある先端医療機器開発・臨床研究センターや臨床研究総合センターの協力により、産学連携による新たな治療法の開発、臨床応用へのサポートが得られ、整形外科の新たな治療法、インプラントの開発研究がすすめられています。

(ii) 京都大学整形外科連携施設について

京都大学整形外科の関連病院数は 53 を数え、関西を中心に西は福岡から東は静岡まで、それぞれの地域の中核病院を数多く擁しています。手術件数の総数は年 37339 件 (2014 年度) に上ります。関連病院の中で、神戸市立医療センター中央市民病院、倉敷中央病院、京都医療センターは、基幹施設として独自の専門研修プログラムを有し、京都大学整形外科と密接に連携して専門研修を行うことが可能となっています。京都大学整形外科専門研修プログラムでは、関連病院の中でも特に研修に適格と判断された 34 の病院を連携施設としています。他のプログラムへの按分を除いた、基幹施設と連携施設を合計した手術件数は 21497 件 (2014 年度) となっています。ほとんどの病院は地域の中核病院としての機能の他に、高度専門領域研修病院としての機能も備えています。また、小児に特化した病院として、滋賀県立小児保健医療センター、大手前整肢学園、聖ヨゼフ医療福祉センターがあり、小児整形に特化したサブスペシャリティに対する専門性の高い研修を受けることが出来ます。

連携施設一覧

i 京都地区

京都市立病院、洛和会音羽病院、京都医療センター (注)、京都桂病院、京都下鴨病院、丹後中央病院、八幡中央病院、聖ヨゼフ医療福祉センター

ii 阪奈和地区

北野病院、大阪赤十字病院、関西電力病院、済生会野江病院、大阪赤十字病院附属大手前整肢学園、日本赤十字社和歌山医療センター、天理よろづ相談所病院

iii 兵庫地区

(神戸市立医療センター中央市民病院) (注)、(西神戸医療センター)、(神戸市立医療センター西市民病院)、県立尼崎総合医療センター、神鋼記念病院、姫路医療センター、豊岡病院

iv 滋賀福井地区

大津赤十字病院、市立長浜病院、長浜赤十字病院、滋賀県立成人病センター、滋賀県立小児保健医療センター、公立甲賀病院、高島市民病院、福井赤十字病院、医療法人林病院

v 静岡地区

静岡県立総合病院、聖隷三方原病院、市立島田市民病院、浜松労災病院

vi 岡山島根地区

倉敷中央病院（注）、地域医療機構玉造病院

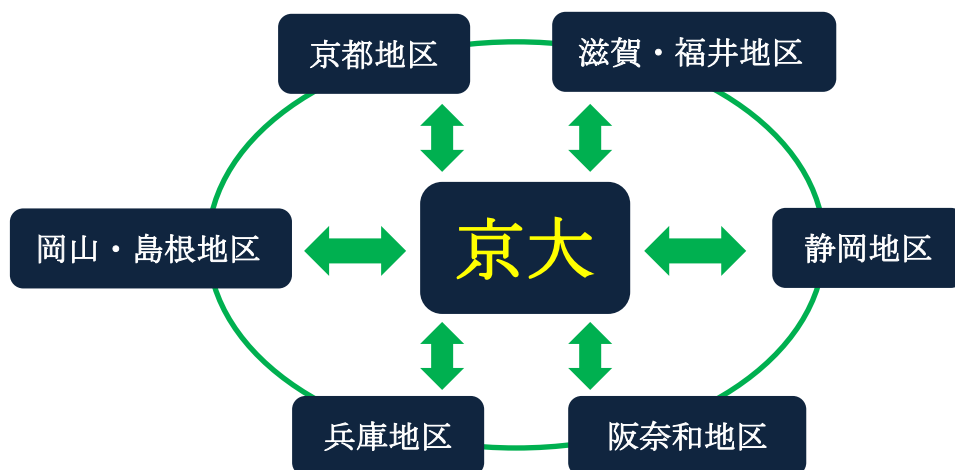
☆ 太字の病院：2014 年度実績で年間手術件数が 1000 例以上の病院

☆ 下線の病院：Ⅱ型研修基幹施設として独自プログラムを有します。但し、連携病院として、京都大学医学部附属病院での研修を行い、京都大学レジデントカンファレンスや各種セミナーを共有します。

☆ 括弧内の病院：京都大学整形外科の関連施設ですが、各病院での研修は神戸市立医療センター中央市民病院の専門研修プログラムに基づきます。

いずれの連携施設も豊富な手術症例数を有しており、連携施設研修では毎年 100 件以上の手術執刀経験を積むことが可能です。

連携模式図



* 京都大学との双方向ネットワークと各地域連携病院間の緊密な連携、プログラム全体および地域毎の研修会での交流を通じて、全ての専攻医にレベルの高い研修を保証します。

（iii）京都大学専門研修プログラムの特徴

京都大学専門研修プログラムでは、豊富な症例数と経験豊かな指導医を有する大病院での研修と、卓越した研究基盤を有する京都大学での研修を組み合わせ、研修終了後の大学院への進学やサブスペシャリティ領域の研修を開始する準備が整えられます。また、特例として、3 年目までに十分な研修を行うことができた判断された専攻医については、研修 4 年目に大学院へ入学し、大学に勤務しながら研究を開始し、1 年早く学位を取得することも可能です。

研修プログラム終了後の進路としては、大きく分けて大学院へ進学するコースと、直接サブスペシャリティ領域の研修に進むコース、将来の開業準備などの為、地域の関連病院

で臨床経験を積み重ねるコースがあります。大学院へ進学する場合、研修終了後の翌年度より整形外科に関連する大学院講座へ入学し、主に整形外科に関連する基礎研究を行います。また関連する臨床研究グループに属することにより、大学院卒業後のサブスペシャリティ領域の研修への移行を円滑に行います。大学院在学中および卒業後に、研究を深化させるための国内外への留学も積極的にサポートします。直接サブスペシャリティ領域に進む場合には、進みたい領域の専門診療班に所属し、京都大学整形外科ならびに連携施設において専門領域の研修を行います。また、地域の関連病院に就職して、あらゆる整形外科疾患に対応できる総合整形外科医を目指す道も開かれています。いずれのコースにおいても、専門研修終了翌年度から行うためには、専門研修4年目の6月の時点で、後述する修了認定基準を満たす見込みが得られていることが必要です。

これまで、多くの地域の整形外科治療の中核を担う人材の育成と、基礎研究基盤の充実した大学において独自の整形外科インプラントと優れた治療法を世界に発信してきた京都大学整形外科は、専攻医の皆さんの個々の能力を最大限に引き上げる研修を行っています。

Ⅲ京都大学整形外科専門研修後の成果

京都大学整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力が身について整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力
- 2) 自立して自ら学び、誠実に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること
- 3) 診療記録の的確な記載ができること
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること
- 5) 臨床から学ぶことを通して、基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師に適切な教育、指導を行うこと

2. 研修スケジュール、研修ローテーション、研修施設について

京都地区、阪奈和地区、兵庫地区、滋賀・福井地区、静岡地区、岡山・島根地区のそれぞれの地域の病院群の中で、地域医療、小児、腫瘍を含めたすべての研修領域の研修を、京都大学での研修を加えることによって可能となっています。プログラム期間内の研修病院の選択に関しては、研修領域による制約はあるものの、専攻医の希望する地域の病院の選択が比較的可能となっています。但し、各地域に医師を過不足なく配置するという観点から、地域による偏在の無いように専攻医の研修病院を決定します。基本的には、プロ

グラム 1 年目の半年間を京都大学で研修し、大学での研修を除いた前半の 2 年間は、都市部を含む地域中核の大規模総合病院で研修し、後半の 1 年 9 ヶ月の間に地域医療病院での研修を含め、高度専門領域研修病院や前半とは異なる大規模総合病院にて研修を行い、研修期間の 3 年 9 ヶ月を通じて年間 100 例以上を目標に主治医となって積極的に執刀していただきます。

以下の表に京都大学整形外科の週間スケジュール、本プログラムの専門研修施設の手術件数一覧（2014 年度）、新患患者数および指導医数と研修領域一覧（2014 年度）、および研修コース一覧とその具体例を示します。

京都大学整形外科週間予定

診療班		月	火	水	木	金
全体	AM	教授総回診			全体抄読会	
	PM	症例カンファレンス				
膝関節、スポーツ	AM	手術	膝カンファレンス、手術	専門外来	手術	専門外来
	PM	スポーツカンファレンス	手術	専門外来	外来	専門外来
脊椎	AM	専門外来	抄読会	専門外来	手術	外来
	PM	手術、症例カンファレンス	外来	専門外来	手術	外来
股関節	AM	手術	外来	症例カンファレンス、手術	専門外来	専門外来
	PM	病棟	外来	手術、リサーチカンファレンス	専門外来	外来
リウマチ	AM	手術	リサーチカンファレンス、抄読会、手術	専門外来	専門外来	専門外来
	PM	手術	手術	RA カンファレンス	専門外来	病棟
腫瘍	AM	専門外来	専門外来	病棟	手術	手術
	PM	放射線科合同カンファレンス	症例・病理カンファレンス	手術	リハビリ、小児科合同カンファレンス	手術
手の外科	AM	外来	専門外来	病棟	手術	手術
	PM	外来	専門外来、カンファレンス	病棟	病棟	手術

専門研修施設の手術件数一覧

関連病院手術件数一覧表(H26年)																																				手術 総数
	脊椎・脊髄外科			関節 外 科																	外 傷 外 科				手外科			末梢 神経 手術	骨軟部 腫瘍	その他	Micro- surgery					
	頸椎	胸・腰椎	脊髄 腫瘍	股 関 節			膝 関 節			肩 関 節			肘関節		足関節・足部関節			骨接合術		再接 着術	その他	関節 手術	腱・ 靱帯 手術	その他												
				人工 関節 再置換	人工 関節 再置換	人工 骨頭	その他	人工 関節	人工 関節 再置換	単顆 置換	靱帯 再建	半月板	その他	人工 関節	人工 骨頭 修復	その他	人工 関節	その他	人工 関節						関節 固定術	関節 形成術	その他					上肢	下肢			
京都医療センター	26	109	2	53	1	33	57	60	3	0	21	52	104	5	22	37	2	40	0	0	2	64	74	96	0	0	0	6	19	20	0		0			
京都市立病院	18	58	1	103	10	31	7	51	1	0	2	13	2	1	0	2	0	1	0	0	0	2	57	75	0	54	1	8	30	28	4	20	4			
聖ヨゼフ							8						2								6										1					
京都桂病院	13	73	1	62	4	14	3	38	5	4	3	15	15	3	8	3	0	1	0	0	2	9	57	73	0	2	5	6	40	20	7	57	0			
洛和会音羽病院	42	203	2	36	1	56	7	57	0	0	8	23	9	1	5	2	0	0	0	0	2	3	189	244	0	96	1	5	63	19	31	27				
丹後中央病院	30	80	2	26	1	17	3	36	1	0	3	19	23	0	9	2	0	1	0	0	0	2	73	88	0	20	10	49	15	35	12	124	12			
八幡中央病院	79	157	2	9	4	16	6	43	3	0	0	26	12	0	6	2	0	1	0	2	0	8	72	74	1	76	1	8	4	2	12	8	2			
京都下鴨病院	3	54		17	2	23	12	104		10	59	227	195	8	59	67	2	21	5	6		53	179	103		2	6	62	7	18	18	221				
大阪赤十字病院	39	130	8	66	2	21	23	204	2	0	25	71	57	2	77	29	0	0	0	1	2	2	59	33	0	8	0	14	3	28	10	40	1			
北野病院	61	170	4	54	4	21	5	42	1	0	8	13	14	0	11	7	0	7	0	0	5	2	57	50	0	30	14	22	8	22	15	2	8			
関西電力病院	65	235	0	20	1	27		36		40	5	13	4	1	10	6	2	5		1	5	5	97	72			86	36		110	7	64	146			
大手前整肢学園		2					9						4								4		1		1							13				
済生会野江病院	15	43	0	22	1	38	0	35	0	0	1	8	10	2	1	1	1	0	0	1	0	143	142	0	15	0	3	39	28	11	86	0				
大津赤十字病院	31	69	3	48	4	66	2	37	1	0	3	15	20	2	1	2	2	1	0	3	6	5	177	305	0	131	4	13	4	10	19	24	4			
市立長浜病院	34	90	1	106	4	36	11	169	5	4	9	21	36	1	4	2	0	2	0	1	10	2	137	130	0	17	0	5	61	46	27	138	1			
長浜赤十字病院	31	64	1	13	4	37	26	22	6	0	6	8	18	1	2	18	0	7	0	0	0	4	187	237	0	139	0	28	1	20	8	8	1			
滋賀成人病センター	16	87	1	171	16	14	8	77	0	1	0	7	8	0	2	2	2	2	0	4	7	2	14	45	0		0	39	2	30	20	7	2			
滋賀小児保健	0	26	0	0	0	0	99	0	0	0	1	6	17	0	0	1	0	2	0	0	0	40	13	4	0	0	4	7	0	17	216	0				
高島市民病院	12	8	0	8	0	24	1	17	0	0	4	16	6	0	11	6	0	0	0	3	4	2	75	115	0	8	2	25	2	12	21	94	0			
公立甲賀病院	4	31	1	19	2	34	1	31	1	0	0	5	7	1	2	0	0	1	0	0	1	3	114	164	1	44	1	7	3	15	12	104	4			
神戸中央市民病院	59	86	7	85	15	38	22	79	3	0	3	14	18	2	1	7	1	2	0	1	3	4	210	196	33	105	16	58	8	37	31	187	48			
西神戸医療センター	14	72	1	43	2	29	6	60	4	0	1	39	15	0	5	6	0	0	0	4	1	0	195	139	0	17	6	28	0	47	7	336	2			
公立豊岡病院	32	43	0	40	5	47	0	47	3	0	1	13	16	0	2	2	0	0	1	2	0	0	132	276	0	42	5	30	1	69	13	151	2			
姫路医療センター	20	46	3	18	3	15	2	22	0	2	1	3	2	0	3	2	0	0	0	1	5	1	55	40	0	2	1	25	3	25	9	72	10			
県立尼崎病院	20	98	4	22	4	26	6	58	2	1	0	11	9	0	49	6	0	0	0	0	1	3	45	61	0	8	1	14	0	30	11	96	5			
神鋼記念病院	11	66	1	32	4	42	4	56	3	8	3	5	13	1	0	1	0	0	0	1	6	5	138	130	0	4	0	24	18	7	14	105	7			
神戸西市民病院	15	75	0	21	3	35	1	47	2	2	0	5	13	2	1	0	0	1	0	1	5	2	126	129	1	9	1	33	6	21	11	133	15			
天理よろづ相談所	48	131	0	59	1	7	3	58	0	0	5	11	13	0	3	0	0	1	0	2	5	10	36	43	0	0	1	12	0	28	22	4	9			
日赤和歌山	34	110	1	47	1	89	4	96	2	5	11	18	26	3	13	5	3	2	0	1	10	20	288	301	3	180	9	30	37	29	50	71	27			
福井赤十字病院	17	41	0	29	6	47	8	51	4	3	4	23	16	0	8	4	0	1	0	2	2	2	102	196	2	13	13	37	1	25	20	129	4			
林病院	14	44	0	13	3	25	5	31	0	4	4	9	4	6	8	6	0	1	0	1	0	3	118	109	0	11	0	8	17	14	2	60	3			
静岡県立総合病院	22	44	0	73	7	43	4	66	0	7	21	36	23	2	71	23	0	7	0	0	5	5	139	168	2	25	26	74	8	61	28	159	7			
市立島田市民病院	10	14	0	15	2	78	4	25	0	0	8	30	4	1	4	3	0	3	0	0	0	2	136	197	0	43	2	53	0	30	5	268	0			
浜松労災病院	7	47	1	12	6	34		15				6	13	1	4	6		1			4		137	156		25	1	44	13	20	6	26	7			
聖隷三方原病院	64	153	2	71	8	101	10	125	2	0	11	26	27	3	30	22	0	3	0	3	3	11	154	335	2	50	2	14	52	22	12	136				
倉敷中央病院	135	294	0	84	12	60	23	105	4	1	23	24	35	10	73	54	9	9	1	1	9	12	394	321	24	295	38	86	68	81	40	42	80			
玉造病院	51	253	0	143	9	9	10	312	16	7	7	179	3	10	32	8	0	4	1	8	16	3	46	41	0	6	12	28	5	58	12	54	11			
京大病院	30	79	13	108	19	8	16	137	5	9	10	19	31	5	21	15	5	8	4	11	23	10	8	14	0	3	18	17	43	23	147	8				

専門研修施設の新患患者数、研修領域、指導医数

施設名	指導医数	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	年間外来 新患者数	分類	
京大病院	16	○	○	○	○	○	○	○		○	○	2957		京都地区病院K
京都市立病院	5	○	○	○	○	○	○					2181	K (l)	兵庫地区病院O
京都医療センター	5	○	○	○	○	○	○	○				1470	K (l)	阪奈和地区病院H
聖3ゼ7医療福祉センター	1									○		398	K (s)	滋賀福井地区病院B
京都桂病院	5	○	○	○	○	○	○	○	○			4100	K (lr)	静岡地区病院S
洛和会音羽病院	3	○	○	○	○	○	○	○		○	○	3060	K (l)	中国地区病院T
丹後中央病院	4	○	○	○	○	○	○	○	○			5268	K (r)	地域中核大規模病院 (l)
八幡中央病院	2	○		○	○	○	○	○				621	K (m)	小児専門病院 (s)
京都下鴨病院	6	○	○	○	○	○	○	○				7464	K (g)	地域中核中規模病院 (m)
大阪赤十字病院	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3119	H (lr)	地域中核高度専門病院(g)
大手前整肢学園	1									○		159	H (s)	地域医療病院(r)
北野病院	6	○	○	○	○	○	○	○				4350	H (l)	
関西電力病院	3	○	○			○		○	○			1438	H (g)	
済生会野江病院	2	○	○	○	○	○	○					2038	H (m)	a: 脊椎
大津赤十字病院	2	○	○	○	○	○	○					5290	B (l)	b: 上肢・手
市立長浜病院	3	○	○	○	○	○	○	○	○		○	3553	B (lr)	c: 下肢
長浜赤十字病院	3	○	○	○	○	○	○	○		○	○	2028	B (l)	d: 外傷
滋賀県立成人病センター	2	○	○	○			○		○			1581	B (g)	e: リウマチ
滋賀県立小児保健	1	○		○						○		1076	B (s)	f: リハビリ
高島市民病院	2	○	○	○	○		○		○			2786	B (mr)	g: スポーツ
公立甲賀病院	5	○	○	○	○	○	○		○			5743	B (m)	h: 地域医療
公立豊岡病院	2	○	○	○	○		○	○				2314	O (lr)	i: 小児
姫路医療センター	2	○	○	○	○		○	○				1541	O (mr)	j: 腫瘍
県立尼崎総合医療センター	5	○	○	○	○		○	○				3695	O (l)	
神鋼記念病院	1					○	○		○			2355	O (m)	
天理よろづ相談所病院	3	○		○		○		○	○	○		2504	H (m)	
日赤和歌山医療センター	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7653	H (l)	
福井赤十字病院	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3720	B (lr)	
林病院	3	○	○	○	○	○	○	○	○			2009	B (r)	
静岡県立総合病院	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○		2577	S (l)	
市立島田市民病院	3	○	○	○	○	○	○	○	○			1802	S (mr)	
浜松労災病院	1	○	○		○							3063	S (m)	
聖隷三方原病院	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3412	S (g)	
倉敷中央病院	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3968	T (l)	
玉造病院	8	○	○	○	○	○	○	○	○			7034	T (gr)	

研修コース一覧

	1年目	2年目	3年目	4年目
専攻医1	京大・京大・K(l)・K(l)	K(l)・K(l)・K(l)・K(l)	K(lr)・K(lr)・K(lr)・K(lr)	K(lr)・K(lr)・K(lr)
専攻医2	京大・京大・H(l)・H(l)	H(l)・H(l)・H(l)・H(l)	H(lr)・H(lr)・H(lr)・H(lr)	H(lr)・H(lr)・H(lr)
専攻医3	京大・京大・S(l)・S(l)	S(l)・S(l)・S(l)・S(l)	O(lr)・O(lr)・O(lr)・O(lr)	O(lr)・O(lr)・O(lr)
専攻医4	京大・京大・K(l)・K(l)	K(l)・K(l)・K(l)・K(l)	K(l)・K(l)・K(l)・K(l)	K(r)・K(r)・K®
専攻医5	京大・京大・B(l)・B(l)	B(l)・B(l)・B(l)・B(l)	B(mr)・B(mr)・B(mr)・B(mr)	B(mr)・B(mr)・B(mr)
専攻医6	K(l)・K(l)・京大・京大	K(l)・K(l)・K(l)・K(l)	K(lr)・K(lr)・K(s)・K(s)	K(s)・K(s)・K(s)
専攻医7	H(l)・H(l)・京大・京大	H(l)・H(l)・H(l)・H(l)	H(l)・H(l)・H(l)・H(l)	H(l)・H(l)・H(l)
専攻医8	H(l)・H(l)・京大・京大	H(l)・H(l)・H(l)・H(l)	H(l)・H(l)・O(lr)・O(lr)	O(lr)・O(lr)・O(lr)
専攻医9	B(l)・B(l)・京大・京大	B(l)・B(l)・B(l)・B(l)	B(lr)・B(lr)・B(lr)・B(lr)	B(lr)・B(lr)・B(lr)
専攻医10	K(l)・K(l)・京大・京大	K(l)・K(l)・K(l)・K(l)	H(lr)・H(lr)・H(lr)・H(lr)	H(lr)・H(lr)・H(lr)
専攻医11	京大・京大・B(l)・B(l)	B(l)・B(l)・B(l)・B(l)	O(lr)・O(lr)・O(lr)・O(lr)	O(lr)・O(lr)・O(lr)
専攻医12	京大・京大・S(l)・S(l)	S(l)・S(l)・S(l)・S(l)	S(l)・S(l)・S(mr)・S(mr)	S(mr)・S(mr)・S(mr)
専攻医13	京大・京大・H(lr)・H(lr)	H(lr)・H(lr)・H(lr)・H(lr)	H(g)・H(g)・H(g)・H(g)	H(g)・H(g)・H(g)
専攻医14	京大・京大・K(l)・K(l)	K(l)・K(l)・K(l)・K(l)	O(mr)・O(mr)・O(mr)・O(mr)	O(mr)・O(mr)・O(mr)
専攻医15	京大・京大・K(lr)・K(lr)	K(lr)・K(lr)・K(lr)・K(lr)	H(g)・H(g)・H(g)・H(g)	H(g)・H(g)・H(g)
専攻医16	B(lr)・B(lr)・京大・京大	B(lr)・B(lr)・B(lr)・B(lr)	B(g)・B(g)・B(g)・B(g)	B(g)・B(g)・B(g)
専攻医17	H(l)・H(l)・京大・京大	H(l)・H(l)・H(l)・H(l)	H(lr)・H(lr)・H(lr)・H(lr)	H(lr)・H(lr)・H(lr)
専攻医18	B(l)・B(l)・京大・京大	B(l)・B(l)・B(l)・B(l)	B(lr)・B(lr)・B(lr)・B(lr)	B(lr)・B(lr)・B(lr)
専攻医19	S(l)・S(l)・京大・京大	S(l)・S(l)・S(l)・S(l)	S(mr)・S(mr)・S(mr)・S(mr)	S(mr)・S(mr)・S(mr)
専攻医20	H(l)・H(l)・京大・京大	H(l)・H(l)・H(l)・H(l)	H(lr)・H(lr)・H(lr)・H(lr)	H(lr)・H(lr)・H(lr)

研修具体例

専攻医1					
研修施設	1年目	2年目	3年目	4年目	修了時
	京都大学 京都市立病院	京都市立病院	音羽病院	音羽病院	
a 脊椎6単位		3	3		6
b 上肢・手6単位		3	3		6
c 下肢6単位	2	3	1		6
d 外傷6単位			2	4	6
e リウマチ3単位	3				3
f リハビリ3単位		3			3
g スポーツ3単位	3				3
h 地域医療3単位			3		3
i 小児2単位	2				2
j 腫瘍2単位	2				2
流動単位5単位				5	5
合計	12	12	12	9	45

専攻医2					
研修施設	1年目	2年目	3年目	4年目	修了時
	北野病院 京都大学	北野病院	日赤和歌山	日赤和歌山	
a 脊椎6単位	3	3			6
b 上肢・手6単位		3	2	1	6
c 下肢6単位	1	3	2		6
d 外傷6単位			6		6
e リウマチ3単位	3				3
f リハビリ3単位	3				3
g スポーツ3単位		3			3
h 地域医療3単位				3	3
i 小児2単位			2		2
j 腫瘍2単位	2				2
流動単位5単位				5	5
合計	12	12	12	9	45

専攻医3					
研修施設	1年目	2年目	3年目	4年目	修了時
	京都大学 大津赤十字病院	大津赤十字病院	市立長浜病院	市立長浜病院	
a 脊椎6単位	1		3	2	6
b 上肢・手6単位	1	5			6
c 下肢6単位		1	3	2	6
d 外傷6単位		6			6
e リウマチ3単位	3				3
f リハビリ3単位			3		3
g スポーツ3単位	3				3
h 地域医療3単位			3		3
i 小児2単位	2				2
j 腫瘍2単位	2				2
流動単位5単位				5	5
合計	12	12	12	9	45

専攻医4					
研修施設	1年目	2年目	3年目	4年目	修了時
	倉敷中央病院	倉敷中央病院	倉敷中央病院 玉造病院	玉造病院 京都大学	
a 脊椎6単位		3	3		6
b 上肢・手6単位		3	3		6
c 下肢6単位	3		3		6
d 外傷6単位	3	3			6
e リウマチ3単位	3				3
f リハビリ3単位		3			3
g スポーツ3単位	3				3
h 地域医療3単位			3		3
i 小児2単位				2	2
j 腫瘍2単位				2	2
流動単位5単位				5	5
合計	12	12	12	9	45

3. 研修方法

参照資料

整形外科専門研修プログラム整備基準 付属資料（資料1～13）

（日本整形外科学会 HP）<http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>

i) 基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、京都大学医学部附属病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年次毎の到達目標と専門技能習得の年次毎の到達目標は、資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システム（Web入力）を用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に、資料7「カリキュラム成績表」の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また資料8「指導医評価表」で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後に資料7「カリキュラム成績表」の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の12月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は13ページの＜iii）⑥修了要件＞に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第三者機関の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

ii) 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成する全ての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また、新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、資料6「研修方略」に従って、1か月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9ヶ月で45単位を修得する研修を行います。整形外科診療の現場における研修方法の要点については、資料13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。

① 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識技能習得状況を6か月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータを参照し、目標未達の分野があれば、取得単位調整・指導を行います。

専攻医の知識習得のための教育セミナーを、専門研修プログラム管理委員会とその所属する基幹、連携施設が一体となって、全体および各地域で定期的に企画・開催します。専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを新たに開催します。

専攻医は1年目の4月中に開催される専門研修プログラム管理委員会主催の専門研修スタートアップセミナーに参加し、整形外科診療を行うための基本事項を学習します。

② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識技能習得状況を6か月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータを参照し、目標未達の技能があれば、取得単位調整・指導を行います。

専攻医の技能習得のための教育セミナーを、専門研修プログラム管理委員会とその所属する基幹、連携施設が一体となって、全体および各地域で定期的に企画・開催します。専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを新たに開催します。

③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査、手術処置等は、資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示されています。手術手技は160例以上経験すること、そのうち術者としては80例以上を経験することとなっていますが、年間100例以上を目標に連携病

院において主治医となって積極的に執刀していただきます。

④ プログラム全体と各地域、施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会は全ての施設で行います。専門研修プログラム管理委員会とその所属する基幹、連携施設が企画する専攻医の知識・技能習得のための教育セミナーに併せて、症例検討会を開催し、症例経験を専攻医間で共有できるようにします。

⑤ リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が自らの症例の報告や、各病院の症例データベースを用いて研究した成果を発表するカンファレンス「京都大学レジデントカンファレンス」を年1回開催します。研究指導は各施設の指導医が行います。

⑥ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより30単位を修得します。また、臨床的な疑問点を見出して解明し、その解答を科学的に導き出し、論理的にまとめる能力を修得するため、年1回以上の学会発表、筆頭著者として研修期間中1編以上の論文を作成します。京都大学整形外科同門会（京整会）が主催する整形外科研修セミナー（年約15回15講演）に積極的に参加することにより、他大学整形外科施設からの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。また、京都大学レジデントカンファレンス（年1回）への参加、同会での研究発表（3年目まで毎年）を行うことにより、臨床研究に対する考え方を習得することができます。また学会発表に対する訓練を積むことができます。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時の指導・助言を行い、各連携施設の指導体制への評価を行います。

⑦ コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識、技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始してもコアコンピテンシーを習得させることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックすることによってコアコンピテンシーを早期に獲得させます。

京都大学医学部附属病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧ 地域医療に関する研修計画

資料3「整形外科専門研修カリキュラム」の中にある地域医療の項目に沿って、周辺の医療施設との病病・病診連携の実際を経験します。

京都大学整形外科専門研修プログラムの研修施設群には、京阪神の都市型総合研修病院以外に玉造病院（島根県）、公立豊岡病院（兵庫県）、丹後中央病院（京都府）、高島市民病院（滋賀県）、林病院（福井県）、島田市民病院（静岡）といった地域中核病院が数多く含まれています。京都府以外にある連携施設とも長年にわたる人事交流があり、各地域における整形外科診療や病病連携、病診連携を経験することを目的に、地域中核病院での研修を行います。本プログラムにおいて、地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携の在り方について理解し、実践することができます。

⑨ サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの京都大学医学部附属病院および連携施設にはこれらのサブスペシャリティ領域の研修施設が数多く含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャリティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を前倒して支援します。

iii) 研修およびプログラムの評価計画

① 専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を、資料7「カリキュラム成績表」、資料8「指導医評価表」、資料9「専攻医取得単位報告書」に基づいて6か月に1回行い(9月末および3月末)専門研修プログラム管理委員会に提出します。他職種も含めた京都大学医学部附属病院および各研修施設での研修評価(態度も含めた総評)を資料10「専攻医評価表」に基づいて各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

② 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

京都大学整形外科同門会である京整会の事務局に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。

年4回の定期委員会(6, 9, 12, 3月)を開催します。また、必要時に臨時委員会を開催します。

12月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。

専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、京整会に報告します。活動報告および専門研修プログラムは京都大学整形外科ホームページ(<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~seikeigeka/>)で公開します。

③ プログラムとしての FD (Faculty Development) 及びその改善計画

指導医は資料 1 2 「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。専門研修プログラム管理委員会の年 4 回の定期委員会にてプログラムの改善できる点を検討し、必要に応じて改定します。

iv) 専攻医の就業環境の整備機能 (労務管理)

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で核施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者と面談し、改善を指導します。

v) 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 か月以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。傷病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 か月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合があります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

vi) 修了要件

- 1) 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
 - 2) 行動目標の全ての必修項目について目標を達成していること
 - 3) 臨床医として十分な適性が備わっていること
 - 4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
 - 5) 1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
- 以上 1～5 の修了認定基準をもとに、専門研修 4 年目の 12 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

4. 専門研修プログラムを支える体制

①専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である京都大学医学部附属病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために京都大学医学部附属病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を設置します。

本研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置き、また、このプログラムが20名以上の専攻医を有することから副プログラム統括責任者を1名置き、副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

②基幹施設の役割

基幹施設である京都大学医学部附属病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

京都大学医学部附属病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④プログラム管理委員会の役割と権限

- 1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- 2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行えるよう配慮します。
- 3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専攻医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理

者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

- 4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。
- 5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修修了判定を行います。
- 6) 京都大学医学部附属病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。京都大学医学部附属病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

- 1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医
- 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

- 1) 専門研修基幹施設である京都大学医学部附属病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥労働環境、労働安全、勤務条件

京都大学医学部附属病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

5. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

i) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として別添資料の日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システム（作成中）を用いて**整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価及び症例登録を web 入力で行います**。日本整形外科学会非会員は、紙評価表を用います。

ii) 人間性などの評価の方法

指導医は資料3「整形外科専門研修カリキュラム」の「医師の法的義務と職業倫理」の項で医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある資料10「専攻医評価表」を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

iii) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した資料7「カリキュラム成績表」、資料8「指導医評価表」、資料9「専攻医取得単位報告書」、資料10「専攻医評価表」、資料12「整形外科指導医マニュアル」、資料13「整形外科専攻医研修マニュアル」を用います。

資料7～10は整形外科専門医管理システムを用いてweb入力することが可能です。日本整形外科学会非会員の場合、紙評価表、報告書を用います。

iv) 指導者研修計画（FD）の実施記録

指導医が、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講すると指導医に受講証明書が交付されます。指導医はその受講記録を整形外科専門研修プログラム管理委員会に提出し、同委員会はサイトビジットの時に提出できるようにします。受講記録は日本整形外科学会でも保存されます。

6. 専門研修プログラムの改善方法

①専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

資料8「指導医評価表」を用いて、各ローテーション終了時（指導医交代時）に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることのないように保障します。

②専攻医等からの評価をシステム改善につなげるプロセス

資料8「指導医評価表」は、研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出します。研修プログラム委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

③研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修指導医および専攻医は真摯に対応し、プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の整

形外科研修委員会に報告します。

7. 専攻医の募集人数と応募方法

<専攻医の受入数> 各年次 20 名 合計 80 名

各施設の専攻医最大受入れ可能な専攻医数を基に、プログラム全体の受入れ数を各年次 20 名、合計 80 名と設定しました。

<応募資格>

初期臨床研修修了見込みの者であること。

<応募方法>

基幹施設である京都大学整形外科に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年 6～8 月頃に説明会を行い、整形外科専攻医を募集します。

翌年度のプログラムへの応募者は、必要書類を郵送またはメールで下記問い合わせ先にお送り下さい。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードしてください。

京都大学整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~seikeigeka/>

- 必要書類：①申請書（ダウンロード）
②履歴書（ダウンロード）
③医師免許証（コピー）
④医師臨床研修修了登録証（コピー）
⑤健康診断書

<募集期間>

7 月末～9 月 30 日

<採否決定>

原則として 10 月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知し

ます。応募者および選考結果については 12 月の京都大学整形外科専門研修プログラム
管理委員会において報告します。

<問い合わせ先>

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54

京都大学整形外科学教室

担当：伊藤宣 （研修プログラム副統括責任者）

後藤公志 （研修プログラム事務担当）

Tel: 075-751-3366 Fax: 075-751-8409

E-mail: seikei@kuhp.kyoto-u.ac.jp